

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4793600034		
法人名	社会福祉法人 伸芽福祉会		
事業所名	グループホーム マイフレンズ		
所在地	沖縄県南風原町字喜屋武202番地2		
自己評価作成日	平成28年2月 22日	評価結果市町村受理日	平成28年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4793600034-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4793600034-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年 3月 7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にあるように心に寄り添ってとあるように、利用者自身からの言葉に真摯に向き合っています。利用者それぞれがそれぞれのペースでゆったり安心して過ごせるようにしています。利用者それぞれが得意とするのを生かし、食事の用意や備品の補修をお願いし、持っている力を生かせるようにしています。居室内、リビングでの利用者一人ひとりの様子を見守り、転倒等しないよう、直ぐに対応できるよう目配りを行っています。いつでも、どこでも人の気配を感じ、淋しくないように心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開所1年目で小高い丘の上にある南風原町2番目の認知症対応型共同生活介護施設である。周辺は静かな住宅地や公共施設等がある。理念(地域貢献・社会貢献・人材貢献・利用者支援・情報発信)に基づき、利用者支援として利用者の要望や意向等は日々のケアの中で直接聞いたり月1回介護相談員の受入れを実施している。また、家族支援に関しても県内外の家族に対し報告・連絡・相談を密に行い家族の介護負担軽減を考慮したケアに努めている。管理者は職員の知識、技術の向上のため勤務調整等を行う等、外部研修会や地区支部研修会等に参加できるように努めている。業者から取り寄せた食材で職員が事業所内で調理している。昼食は職員も持参した弁当を利用者と一緒に食べている。職員はその日のメニュー等の話を利用者としながら楽しく食事している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年4月11日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当初は月1回の職員会議で理念の読み合わせをしていたが、その後職員の出入りが多く理念を伝えきれていない状況です。	開所時から法人理念を掲げている。法人代表者より理念の見直しについての提案があり現在、事業所独自の理念を職員間で話し合い検討している。出退勤時や業務中に職員の目に触れるよう事業所の玄関に理念を掲示している。職員ミーティング等で理念に振り返る機会は少ない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催し物に出かけていたが、利用者が当日に行かないと言ったり、職員の人数が足りなかったりと、地域の施設へ出向く回数は多くないです。	事業所で敬老会やおやつ作り・お茶タイム等の行事を開催し、パンフレットを配り地域住民や保育園児を招待している。地域の敬老会から招待があり利用者全員で文化センターに出向き交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に情報を発信したり、当ホームへ招いての会を催したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームでの利用者の日常の様子や運営状況を報告し、どのような取り組みが必要か等のご意見を伺い、実践し、その報告も次の会議で報告をしています。	利用者・地域代表・行政職員が参加して定期的に推進会議が開催されているがこの間家族の参加が一度も見られない。事業所からは主に行事や運営報告がされておりヒヤリハット事例の報告は行っていない。委員からは地域の催し等で事業所の広報活動方法等の提案がある。	運営推進会議の意義を踏まえ、更に家族が参加し易い環境作り・日時設定、及びヒヤリ・ハットや提案に対する報告等も含めた議事録の整備、報告が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の包括支援へ定期的に伺い、当ホーム・利用者の状況を伝え、相談、連絡は密に取っています。	管理者や介護主任は毎月地域包括支援センターを訪問し、利用者の状況報告及び事業所の現状報告をしている。地域外から利用についての問合せがあり市町村担当者に近隣市町村からの利用受入れの相談等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1名が入浴介助し、もう1名で他利用者の対応しないといけない場合は、短時間ではあるが玄関の施錠を行う事がある。その他、利用者の動き、様子をしっかりと見守ったり、直ぐに利用者につき介助できるようにしています。	虐待防止・権利擁護等の外部研修や職員会議で身体拘束をしないケアについて理解を深めている。家族へは利用契約時や面会時にリスクについて口頭で説明をしている。利用者が外出しそうな様子を察知して本人の意向を聞き取り一緒に散歩やドライブで対応している。	

沖縄県(グループホーム マイフレンズ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症を理解し、利用者の行動を見守り、危険が無いよう声掛けをしている。職員のケアを今後どのようにするか検討中です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加し、その内容で今必要な個所を更に詳しく調べ、活用できる様に職員へ報告しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者や家族様にホームでの生活状況や職員の関わり方等を伝え、後日でも疑問に思った事があれば直ぐに答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問の際、利用者の状況を伝え、意見や要望を伺うようにしている。	利用者の要望は、日頃の会話で聞いたり介護相談員を受入れ伝えてもらっている。家族が県外在住の場合はfaxやメール等で意見や要望を聞き県内の家族は面会時や担当者会議で意見や要望を聞く機会を設けている。状況変化等の場合はそのつど家族と電話で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月始めのミーティングの時、利用者の状況確認、報告を行い、どのように対応するか、どのような方法が利用者にとって良い方法を職員全員で話し合っています。	職員意見は、毎月開催の職員会議や管理者による個人面談と状況に応じて意見や提案等を聞いている。これまで職員から利用者の状況に合わせた出勤時間変更や棚等の備品購入等が提案され対応している。又、職員から研修会の受講希望等があれば事業所が受講料を全額負担して働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得を希望する職員には進めて資料など渡し協力している。実際資格所得した職員もいます。資格に応じ給与体制等考慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、勤務体制を見て行くようにしています。その研修報告を他職員へ伝えていきます。現在、職員人員が足りなく行かせられない状況です。		

沖縄県(グループホーム マイフレンズ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会からの勉強会へ参加し、交流を通して、こちらからの疑問や不明な点を指導してもらっています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活や健康面を聞き、ご家族様の協力を頂き、安心して生活できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と本人の状況、それに対しどのような対応が望ましいのかを話し合い計画を立て、よい関わりが出来る様、ご本人様にとって良いケアが出来る様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の相談内容や利用者の状況を把握し、その状況にあった対応を行い、ご家族様にも状況を伝えて、支援を続けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けを多くし、本人の気持ちに添うように、安心して、ゆったりした生活が送れるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話をかけ、状況を説明し、どのようにしたら、ご本人が満足いただけるかを話し合い、家族と共に支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも家族や友達が訪ねて来れるようにしていますし、実際、よく訪ねて来られます。引き続き、いつでも訪ねて来られるような環境、雰囲気づくりに努めています。	利用者との日常会話の中や家族から友人関係や馴染みの場所等に関する情報を得ている。家族の協力で美容室や墓参りに出かけたり、知人と一緒に外食やドライブに出かけている。又、毎月の友人、知人との模合に参加し継続的な交流ができるように支援している。	

沖縄県(グループホーム マイフレンズ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を工夫し、話が弾むよう、互いが支えあえるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られても、訪問し様子を伺ったり話を聞いたり、しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定できるよう努めています。本人の希望に添える様、どうすれば良いかを家族様と相談しています。	普段の会話から利用者の意向や要望を聞いている。例えば訪問マッサージの利用希望や知人への電話連絡を毎日行いたい利用者へも対応し一人ひとりの思いや希望に添った支援が行われている。把握が困難な方は仕草や表情、家族からの情報で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、またはご家族様にこれまでの生活歴等を伺い、思いを把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理強いする事無く、ご本人の生活リズムを大切に、日々ゆったりを安心した生活ができるように、その日の様子や状態を記録や口頭で職員間で把握し対応するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや職員ミーティング等で本人や家族、受診の結果を話し合い、ご本人にとって良いケアを行えるよう計画を立てています。	平成28年1月～3月まで介護支援専門員が不在である。但しその時期は利用者の更新や状態変化等がなく6ヶ月毎のモニタリングや評価がなされている。職員と介護支援専門員がミーティングやカンファレンス等で検討を得て介護サービス計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康状態を個人日誌に記録し、申し送りに職員間で把握し、変化があればどのように対応すれば良いかを話し合い、利用者様に合わせて対応しています。		

沖縄県(グループホーム マイフレンズ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて、ご本人やご家族様と話し合い、調整しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加はしているが、行事の把握が難しく、今後多くの行事に参加出来るよう、自治会に加入を計画しています。地域の運営推進委員からの情報を貰い参加もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的を受診し、必要時に応じて受診しています。その他、直接医師と連絡を取り、指示を仰いでいます。	受診は家族対応で、利用者全員がこれまでの馴染みのかかりつけ医を継続している。家族が県外在住の場合は事業所職員が対応している。受診時は事業所より家族を介して情報提供書を渡し主治医から書面で回答を得ている。又、家族からの口頭報告もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問の際、又は受診の際、情報を提示し相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は本人の状況を家族様より頂いて、面会に伺い、退院が決まれば、退院後ホームで必要な対応や注意事項等を聞き、退院後の受け入れがスムーズにいくようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画は立ててはいるが、しっかりした方針はまだ決まってないです。	開設1年目で看取りの事例は無いが、利用者が重度化している為、今後の方針について法人代表者と話し合っている。家族には入所時に、急変時における対応に関する同意を得ており、面会時に利用者の状態変化について説明し随時意思を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはありますが定期手には行ってはいません。。心肺蘇生法は年に1回行っていますが、年に2~3回は必要と感じているのでやります。		

沖縄県(グループホーム マイフレンズ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年2回、消火器の使用方法は年に1回行ってはいますが、職員が定着しないので難しいです。個別に火災報知器の使用方法、避難経路、避難の仕方を伝えています。	昼間想定で消防署立会の総合訓練と早朝想定自主訓練を実施している。事前に地域住民に声かけを行ったが、当日の訓練に参加協力が得られなかった。台風時には夜勤以外の近隣に住む職員が泊まり緊急時に備えている。災害時の備蓄が常時準備されていない。	消防訓練は年2回の実施が定められているため夜間想定での訓練も実施してほしい。又、地域住民の協力や備蓄準備等を含めて早期の実践が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや対応時の言葉かけ、目線の位置に気を付けるよう伝えてはいますが研修は行なってはなりません。	日頃から敬った言葉づかいに気をつけ、利用者の目線に合わせて対応している。一人ひとりの尊重から同性介助が行えるように努めている。居室ドアが開いている際に足元のみが見える長さののれんがかけられプライバシーを損ねない工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や気持ちを聞き、本当の気持ちを探っていますが、全部が全部受け止める事が出来ない難しさと葛藤しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人がしたいことを叶えようとの思いはあり、その日の状態で、気分を変え出かけたりはあります。職員人員で困難な場合があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に何を着るかを尋ね、決めてもらっています。自分で髪をとかしたり、職員がといたりしています。職員が身だしなみに気づいたときは、声を掛け直してもらったり、直したりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日では無いですが野菜の下ごしらえを職員と一緒にしています。また食事前後のテーブル拭きも行っています。	配食業者の栄養士が立てた献立に添った食材のみが提供され3食事業所内で職員が調理している。食事中は静かなBGMが流れ職員も持参した弁当を利用者と一緒に会話を楽しみながら食べている。利用者から「パンが食べたい」という希望に対しおやつにパンを取り入れる等食事が楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎日記録して、まずご家族様に報告しています。苦手な食品の調理の工夫も職員は行なっています。水分量が確保できるよう、飲み物を工夫しています。		

沖縄県(グループホーム マイフレンズ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が声掛けし、見守ったり促したり、介助したりしてます。夕食後の歯磨き時は義歯はきちんと洗浄剤を使用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をしっかり録り、日中の排尿感覚、夜間の排尿感覚を把握し、それぞれ声掛けしてトイレへ誘導しています。	利用者が終日トイレで排泄できるように排泄チェック表を作成し個別の排泄パターンを把握している。退院後職員二人で支え歩行する等下肢筋力低下強化に取り組み自立に向けた支援が行われている。同性介助で排泄支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便間隔を把握し、乳製品や食物繊維の多い食材等食事への工夫をしました運動も進めて行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	初めは曜日を決めていましたが、健康状態やその日の気分で入浴したい等の希望を聞き入浴しています。	入浴は週3回を基本としているが利用者の希望に合わせて支援している。シャンプーや石鹸等は事業所が準備している。脱衣室での着替えから浴室での入浴支援まで職員が個別に対応している。窓やヒーター等換気や温度に配慮された環境となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状態に応じて休息したり昼寝を行っています。目覚めた時に少し経って、本人へ確認し運動へと誘っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルがあり、受診後の薬の増減、薬の作用、種類を確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のある利用者は趣味を生かして時間を過ごせますが、そうでない利用者はこちらがゲームやボール遊び等と誘いすごしています。		



沖縄県(グループホーム マイフレンズ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は利用者自身の友達との模合や食事会へと参加していましたが、この頃は少なくなっています。時に利用者を連れ近場の散歩もします。また浜下りもしました。	一人ひとりの体調や気分に合わせて、近隣を散歩している。月2回ドライブに出かけ、店舗で本人が選んだ洋服やお菓子を買ったり、外食(ハンバーガー等)している。季節に合わせて花見や浜下りに出かける等普段行けない場所にも積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人自身がお金を所持している方と所持していない方がいます。所持している方は自身で通販を利用して品物を購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれの利用者が年賀書を書いて郵送しました。また利用者も手紙を書き、職員が投函しています。電話はそれぞれが携帯を所持しており、自身でかけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が製作した季節に合った装飾をしています。またすぐ前の花壇に花を植え、季節を感じてもらえるようにしています。	居間兼食堂の壁には利用者の手芸や季節の作品が掲示されている。また、心地よいオルゴールヒーリングの音楽が流れ、天窓の採光により自然の明るさが事業所全体に行き渡っている。食卓は波型の車いす対応のテーブルで季節の花(桃の花)が活けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角を利用し、そこで好きな製作や趣味を行えるようにしています。一人になりたい時は部屋へ戻りひとりの時間を過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着いて過ごせるように、見慣れた家具や置物を置き、本人が使い勝手がいい様に配置しています。	ベッドとタンスが備え付けられている。本人の希望・状況に合わせて、使い慣れた寝具やタンス、馴染みの鏡台や写真、テレビ等が持ち込まれている。本人と相談しながら居心地よく過ごせるよう家具等が配置されている。居室入り口には足元のみが見える個々の好みののれんがかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、手摺も設置され、またトイレや本人の部屋が分かるように入口にそれぞれの装飾を貼っています。		